

46. 福島フェアの取り組み

SGH 「福島フェア」を開催しました 東北復興防災研修事後 ACTION②



2月14日(月)～16日(火)の3日間、本校カフェテリアにて「福島フェア」を開催しました。これは、12月に実施したSGH東北復興防災研修の参加生徒11名が、現地で学んだこと、感じたことをどのような形で行動に移すべきなのかということを担当教員とともに考え、福島の魅力、人々の温かさ、福島の食べ物の安全性を伝えるために企画したものです。議論の末に行き着いたのは、学校のカフェテリア(食堂)で「福島フェア」を開催することでした。同研修でお話をお伺いした一般社団法人AFW代表の吉川彰浩様(兼福島県双葉郡檜葉町「木戸の交民家」の団体「りきっど。」メンバー)に檜葉町産のお米を、(有)まるせい果樹園さんの佐藤清一様からりんごをそれぞれ仕入れさせていただき、カフェテリア店長と折衝をし、「会津ソースカツ丼」と「りんごのポテトサラダ」を期間限定で提供していただくことになりました。



校内へは、福島の食の安全性アピールとフェアの案内をするために、中高それぞれの全校集会の場でプレゼンテーションを行いました。代表の生徒は、フェアの概要、企画した理由、実際に福島に行って感じたことなどを伝えました。最後は次のように力強いメッセージで締めくくりました。「福島フェアを機会に福島＝放射能ではなく、福島＝安全という考えを持ってもらいたいです。そして、この福島の食べ物を通じて福島の魅力、今回のフェアのために食べ物を提供して下さった福島の方々の温かさというのがみなさんに伝わればいいと思います」。

集会終了後にはフェアを話題にする生徒たちも散見されました。また、このような活動を、現地の方々には非常に好意的に受け取っていただき、本校としてもうれしい限りです。

フェア開催中には、企画生徒がカフェテリアで案内をし、限定 40 食前後の 2 つのメニューはすぐに完売しました。「食べたかったのに売り切れていた」と言う声も多く聞かれ、生徒や教員の多くが「福島フェア」のメニューを注文してくれました。また、フェアのメニューを食べてくれた人にアンケートに協力してもらいました。



以下は、アンケート結果で出ていた意見です（多かった意見から順に）。

・フェアのメニューを選んだ理由

「おいしそうだったから」「研修参加者ががんばっていたから」「どんな味が試してみたかったから」「福島のために何かしたいと思ったから」

・今回の「福島フェア」を通して、あなたの福島に対するイメージは変わりましたか？

「変わっていない」「変わった」「あまり福島のイメージがない」

・上記質問で「変わっていない」理由

「元々悪いイメージは持っていない」「食の安全については以前から不安はなかった」「復興に向けて努力されている」「色々な農産物の産地で食の豊かな地域というイメージ」「一度行ってみたい」「私も福島でボランティアしたり、数ヶ月滞在していたことがあったので、良いイメージ」



・上記質問で「変わった」理由

「食べ物は安全ではないと思っていたが安全だと知った」「りんごがおいしかった」「放射能や震災のイメージが強かったけど、復興にむけて努力されているとわかった」「良い物を作ろうと努力されていることがわかった」「今まであまり福島になじみがなかったが、研修参加者の頑張りをとても感じ、福島のために改めて何かできることはないか考えるきっかけになった」「会津ソースカツ丼、現地で食べたい」「原発のイメージから復興のイメージが変わった」「フェアを通して、忘れかけていた東北のことを思い出すきっかけになった」

我々が思っていた以上に、フェア開催以前から「福島に対して良いイメージを持っている」人や、「福島の食べ物が安全だと思っている」人が多かったことがアンケートを通してわかりました。好評であった今回のフェアの再企画を希望する声も多く聞かれました。「福島のために自分に何ができるか考えてみたい」「福島に行ってみよう」「会津ソースカツ丼を食べに行ってみよう」という声も聞かれ、大成功だったと言えるのではないかと考えています。

今回、生徒たちが研修後に ACTION へと繋げていった活動をみるにつけ、「学びとは何なのか」をいうことを改めて考えざるをえませんでした。生徒たちの想いが福島の方々に届くことを願って止みません。



今回の企画でお世話になった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。